

## EX STAGE”、“ラスト・ストーリーズ1

| 話者     | 台詞 / ト書き  |
|--------|---|
|        | ■ライブハウス   |
| テルミ    | ……準備OK。<br>リハは万全とは言えないけど、<br>はじめられるよ。                         |
| キョータロー | クリア姫達も<br>スタンばってるってよ。<br>やるしかねーな、この一大イベント。                    |
| アナテマ   | ……【ユーザー名】。<br>自分がなにをすべきかは、<br>もうわかっておりますよね。                   |
| アナテマ   | あなたのヒロインはかつて、<br>あなたのためだけに<br>歌いたいと願った。                       |
| アナテマ   | あなたと出会ってからのことを<br>言葉にならぬ言葉として、<br>レイヤードに刻んだ。                  |
| アナテマ   | 消えゆく運命を受け入れながらも、<br>イオンはあなたと共に生きることを<br>強く——強く願っていたはずですよ。     |
| アナテマ   | であれば、あなたにできることはひとつ。<br>あなたもイオンの存在を強く願い、<br>ステージで、誰よりも強く在りなさい。 |
| アナテマ   | そしてその一部始終を、<br>あなたを見る全ての者に伝えなさい。<br>そうすることで、この社会——            |
| アナテマ   | ——wiz-dom自身も、<br>イオンの帰還と歌唱を望み、<br>ルールの更新を認めるでしょう。             |
| キョータロー | 望んだことは、現実になる。<br>それがレイヤード技術——<br>だったもんな。                      |
| キョータロー | 【ユーザー名】。<br>お前の強さは俺らが証明する。<br>お前は、本気で戦えばいい。                   |
| テルミ    | 今までと同じだね。<br>ただその目的が、あの子っただけ。<br>世の中の誰か、じゃなくてあの子だよ。           |
| セナ     | ……………<br>本当にできるのかな、<br>こんなこと。                                 |
| アナテマ   | 試す価値はありますよ、セナ。<br>【ユーザー名】の<br>意識にはもう、彼女の——                    |
| アナテマ   | ——イオンの代替は、<br>不要なのですから。<br>再度イオンを呼べる可能性はあります。                 |
| キョータロー | ……本当なんだろうーな、アナテマ。<br>もしウソなら俺達は、今から<br>こいつを殺すことになるんだぞ。         |
| アナテマ   | 証明する方法はありませんが、<br>彼は実感できているはずですよ。<br>その意識、すなわち——。             |
| アナテマ   | 記憶と演算を司る領域を、<br>アクシスレイヤーに<br>『移管』していることを。                     |
| テルミ    | 心を『移管』って……<br>軽々と、とんでもないこと<br>してかしてるよね。                       |

|        |  |
|--------|--|
| アナテマ   | かつてジョシユアはあのレイヤーへ意識を移すことに成功しました。理論上は不可能ではありません。   |
| アナテマ   | アクシスレイヤーへのログインで、彼の意識処理に変容が訪れた。偶然ですが、あり得る話です。     |
| テルミ    | あるいはジョシユアが彼の意識を守ろうとしてくれた——って、解釈はアリ？              |
| アナテマ   | どうでしょうねえ。あのクソ親父がそこまで気を遣える男だとは思えませんが。             |
| セナ     | アナテマ、抑えてよー。                                      |
| テルミ    | まあ、ピースが揃ったってのはあたしや姫も同意見。『小特異点』も解析できたしね。          |
| セナ     | クリスマスからまだ1カ月も経ってないのにね。さすがじゃん、おねーさん。              |
| テルミ    | 姫の『中間言語研究』のおかげだよ。ホント、イオンったら、いちいち暗号なんかにして残すんだもんね。 |
| テルミ    | そりゃあこんなこと、堂々とは人前に残せないかもしれないけど……。                 |
| キョータロー | そんなに問題あったのか、その暗号っつもの。                            |
| テルミ    | 問題ってというか。他愛もないメッセージだよ、すごいシンプルで、純粋な。              |
| テルミ    | だから、これなら——姫が『翻訳』したこの言葉なら。あたしが、曲にできる。             |
| セナ     | 小特異点から生まれた『曲』ね——……。                              |
| テルミ    | そ。これは、あの子の曲。あの子のための歌。                            |
| テルミ    | あの子が最高の舞台上で歌うために用意した。あの子がいないと、再生できない。            |
| テルミ    | 【ユーザー名】。ハッキリ言っとくけど、イオンの言葉は——強いよ。                 |
| テルミ    | キミが歌の価値を見失ったら、もしイオンが戻ってきてもまた、消えちゃうかもしれない。        |
| テルミ    | なにがあっても、歌を受け止めて。これ歌わせといて、あの子の気持ち裏切るのは……それが一番、最悪。 |
| キョータロー | ……ただ戦うより難しーな。【ユーザー名】、お前が命を賭けるのはそこだな。             |
| キョータロー | で、世界が変わってもイオンの歌を聞きたいって、渋谷のヤツらにも思わせりゃいーわけね？       |
| セナ     | そんなことで戻ってくるなんて、都合よすぎるっても思うんだけどね。                 |
| アナテマ   | 都合とは、結論を導く条件のこと。少なくとも条件は揃い、願いも同じ方向のはず。           |
| アナテマ   | wiz-domもまた、人間の願いから生まれた結論の集合。状況が変われば結論も変わる。       |

|        |  |
|--------|--|
| アナテマ   | 彼女を取り戻したいのであれば、<br>彼女を知らしめるしかありません。<br>彼女のための表現をもって。     |
| キョータロー | ま、どっちにしろ俺らも<br>やるしかねーってことだろ。<br>あいつを思い出してもらうためには。        |
| テルミ    | うん、やんなきゃいけない。<br>あの子の物語は、<br>あたしらの物語だったからさ。              |
| アナテマ   | 機能をデリートしたはずのイオンが、<br>在りし日の記憶を全て持っている、<br>とは限りませんが……。     |
| キョータロー | なにに、思い出ささ。<br>俺らと【ユーザー名】の<br>伝説の戦いを再現すりゃ、すぐにさ。           |
| テルミ    | そーだよ、すぐだもんつ。<br>あたしの顔見れば、きつとね！                           |
| キョータロー | へへ。なんで俺ら自体のイメージが<br>ACTになるのか不思議だったけどよ。<br>この日のためだったのかもな。 |
| アナテマ   | ……では、よろしいですね。<br>そろそろ、開幕の時間です。                           |
| キョータロー | ああ、見といてくれアナテマ。<br>オルタナステージを司るお前が<br>立会人なら、ハクもつく。         |
| テルミ    | 【ユーザー名】、<br>あの子に繋げるエンタメ、<br>このセトリではじめるよっ！                |

| 話者     | 台詞 / ト書き                                     |
|--------|--|
|        | //テルミACT&キョータローACTとのバトル                      |
| キョータロー | やるぞ【ユーザー名】。<br>たっぷり注目集めて、<br>あいつに思う存分歌わせてやれ！ |
| テルミ    | イオンを呼び戻して、<br>またみんなで、朝ご飯作ろ。<br>ね、【ユーザー名】。    |
|        | //バトル終了                                      |

| 話者     | 台詞 / ト書き                                   |
|--------|--|
|        | ■ライブハウス                                    |
| セナ     | すげー……これが、アクトマキア上位入賞者同士のマジの戦い……。            |
| テルミ    | あーもー、負けたっ。キョータローと一緒になら勝てるかなってちょっと思ったのに。    |
| キョータロー | へへ、惜しかったな。どーだアナテマ、セナ？なんか変化はあるか？            |
| アナテマ   | 再生数は加速度的に高まっています。各地の『小特異点』のノイズも濃厚になっていますね。 |
| テルミ    | SNSでも、『早くあの子の歌が聴きたい』ってカキコミ、増えてるよ！          |
| セナ     | おにーさんのほうは……まだ、マッチングがはじまる気配はないか。            |
| セナ     | ……。迷ってんのかな、世間も。死人呼び戻すようなものだもんね。            |
| キョータロー | だったら通じるまで伝えるだけさ。だよな、【ユーザー名】。               |
|        | //選択肢<br>A 死ぬ気で伝える<br>B 迷ってくれていい           |
| 選択肢A   | 死ぬ気で伝える                                    |
| キョータロー | へへ、それでいい。すぐに通じるだなんてお前も思ってないだろ？             |
| キョータロー | 世間を守ったお前の願いだ、本気なら聞いてもらえるさ。                 |
| 選択肢B   | 迷ってくれていい                                   |
| キョータロー | ……そーだな。一度消えた相手と出会う、なんてとんでもねー行為だからな。        |
| キョータロー | 少しは時間かけて、本当にそうなってもいいか考えてもらう必要はあるよな。        |
| 合流     |  |
| キョータロー | どう転んでもケンカは売れ。『限りある命だから尊い』っつー根拠のねえ古いトレンドによ。 |
| キョータロー | イオン——そろそろ出てこいよ。もうお前も、表現していいんだ。世界も変わってきたぞ。  |
| キョータロー | ……。な。お前らだって、そー思ってるだろ？                      |

|      |   |
|------|---|
| ジR   | .....。<br>我々はACTである限り、<br>人間と異なる正解は出せない。              |
| ジR   | だが、彼女が戻ってくることで<br>正解の数が増えるかもしれない。<br>私は、それを正義と考える。    |
| エチカ  | エチカはよくわかんないけど、<br>イオンはテルミの友達だし、<br>エチカの友達だからー。        |
| エチカ  | イオンが戻ってくるなら、<br>いっぱい歌を教えてあげるよー。<br>エチカ、友達で先輩だからー！     |
| テルミ  | うん……そうだね。<br>みんなでイオンを呼んであげよ。                          |
| テルミ  | おいでよ、イオン。<br>あたし、なんとか形にしたからさ！                         |
| アナテマ | ……この調子ですね。<br>すぐに次のステージへ、<br>【ユーザー名】。                 |
| アナテマ | 最後まで倒れず、マッチングと<br>プレゼンを続けてください。<br>これはあなたのヒロインのための舞台。 |
| アナテマ | イオンを生かし、<br>イオンを呼び戻すプログラム——<br>『イオン＝ライブ』なのですから。       |

## EX STAGE”,”ラスト・ストーリーズ2

| 話者   | 台詞 / ト書き  |
|------|---|
|      | ■宮下公園   |
| ミアラカ | ひっひっふー、<br>ひっひっふー……。                                    |
| ミアラカ | むう、大魔王でも<br>産みの苦しみの本番前は<br>緊張してきますねー……。                 |
| カツマ  | だいじょぶ、ミアラカ？<br>ほら、背中なでなで。                               |
| ミアラカ | あふーん、落ち着きます……。<br>つかカツマさん、なんやら<br>前よりバブみ増しましたねえ。        |
| カツマ  | そう？<br>これでもこの姿のときは<br>クールなつもりなんだけど。                     |
| ミアラカ | むふ、可愛いは隠しても<br>にじみ出るもんなんですよって。<br>自然に偏在するオルゴンのように！      |
| カツマ  | へ、へー……オルゴン……？   |
| コウヘイ | ミアはときどき、<br>僕が必死で構築してる仮説を<br>さらっと言葉にしちゃうよね。             |
| ミアラカ | おう？ コウヘイさん、<br>そろそろ始まるんですから<br>学問はほどほどにですよ？             |
| コウヘイ | やることはやるよ。<br>でも、これから起こることは<br>きちんと分析しておきたいからね。          |
| コウヘイ | たとえば『小特異点』——<br>中身は暗号だったみたいだけど、<br>同時にこれはシステムだ。         |
| ミアラカ | ……??  |
| コウヘイ | なぜイオンは暗号を、<br>【ユーザー名】が生きた<br>軌跡の上に残したのか——。              |
| コウヘイ | イオンは、彼のアカウントと<br>ぶつかったアカウントのライフログを<br>ブロック化し、記憶を記録に変えた。 |
| カツマ  | ……………??   |
| コウヘイ | レイヤードは空間そのものに<br>ネットワークを重ねる技術だからね。<br>やろうと思えば不可能じゃない。   |
| コウヘイ | 仮想通貨の流通に応用された<br>『ブロックチェーン』に似てる。<br>これなら不滅の記録を管理できるよ。   |
| ミアラカ | んもー！<br>わかる言葉で喋ってください、<br>コウヘイさんっ！                      |
| コウヘイ | ごめんごめん。イオンはね、<br>無意識にデータベースを<br>レイヤード上に作ってたってことさ。       |

|      |   |
|------|---|
| コウヘイ | 空間情報を認識するレイヤードの特性、エンタメを記憶するライフログを利用し、自分の言葉を、暗号の鎖として残す—— |
| コウヘイ | ——彼女の名前を借りるなら、『アイオニックチェーン』とでも名付ければいいのか。                 |
| ミアラカ | ほほう。よーわかりませんが、それはお姉ちゃんほくてアメージングな響きですね。                  |
| カツマ  | 空間そのものと、人間のアカウント——誰かが覚えている限り、イオンの言葉は消滅しないってこと？          |
| コウヘイ | そう。その起源ブロックこそが【ユーザー名】なんだ。彼との道筋こそイオンの記憶だからね。             |
| コウヘイ | 魂が消えても、言葉は残る。不滅の言葉は、集合知であるwiz-domにも働きかけられる。             |
| カツマ  | 絶対に消せないミクロな記録が、それを管理するマクロな社会知性そのものに影響を与える……。            |
| ミアラカ | つまりは、イオンさんの言葉ならwiz-domを説得できるっつーことですね、コウヘイさん！            |
| コウヘイ | 理屈になってないけれどね。イオンはこんなことが可能だって計算してたのかな。                   |
| ミアラカ | むふふっ、そーです。お姉ちゃんの想いはきっと、お姉ちゃんの覚悟より上なんです。                 |
| カツマ  | イオンは自分の言葉をもっと強く、わかりやすい表現にしてくれる友達がいるってこと、わかったのかもね。       |
| ミアラカ | ですですっ。誰かが言葉を拾って先生が広めてくれるって、お姉ちゃんは信じてたんですよ！              |
| カツマ  | うん、僕も彼とイオンの表現を全力で広めたい。                                  |
| ミアラカ | ですから、ステージの上ではなんの遠慮もありませんよ。んね、先生っ。                       |
| カツマ  | わ、【ユーザー名】。来てたんだね。                                       |
| コウヘイ | 【ユーザー名】。渋谷中を走り回らせて悪いけど、今日は耐えてくれよ。                       |
| コウヘイ | 『アイオニックチェーン』は、君がいないと意味を持たない。君の戦いだけが世界を刺激する。             |
| コウヘイ | 僕達はそれをここから見届けよう、メンテルちゃん。                                |
| メンテル | はい、コウヘイ。真のシンギュラリティに立ち会いましょう。                            |
| カツマ  | やろ、【ユーザー名】。僕も『私』も、あの子にまた会いたいんだ。                         |
| ミアラカ | お姉ちゃんの歌のためなら、ミアは何度でも神に牙剥きますっ！さあ、盛り上がりましょーっ！             |

| 話者       | 台詞 / ト書き  |
|----------|---|
|          | //ミアラカACTとレイチェルACTとバトル                              |
| カツマ      | 行くよ、私。<br>クリスマスに続いて、<br>レイヤードを盛り上げよう！               |
| レイチェルACT | わかってるよっ、僕。<br>あの子のためにも、<br>今日で世の中、変えちゃおう！           |
| ミアラカ     | ガンガン来て下さいね、先生。<br>お姉ちゃんの心を取り戻すためなら<br>ミアは、なんでもしますっ。 |
| ミアラカACT  | 誰がなんと言おうと森羅万象！<br>お姉ちゃんには心があって！<br>心は、救われるべきなんです！   |
|          | //バトル終了   |

| 話者    | 台詞 / ト書き   |
|-------|--|
|       | ■宮下公園  |
| ミアラカ  | ひゃー……強い。<br>やっぱり強いですね先生、<br>ハイパーエンパーですねっ。              |
| カツマ   | ホントだね……。<br>こんなに強かったら、<br>みんなにも届くよ！                    |
| コウヘイ  | すごい、さらに観客が増える。<br>オルタナステージ史上、<br>最高記録なんじゃないか、これ。       |
| ミアラカ  | む……。<br>でもまだマッチングの気配は<br>ないんですね……。？                    |
| ミアラカ  | 先生、諦めちゃダメですよ。<br>このレイヤードには、まだまだ強い<br>人とACTがいっぱいいるんだから！ |
|       | //選択肢<br>A 絶対に諦めない<br>B まだまだいける                        |
| 選択肢A  | 絶対に諦めない  |
| ミアラカ  | いひひっ。<br>です、先生が諦めたとこなんて<br>見たことないですからねっ。               |
| ミアラカ  | だから……。<br>ミアも諦めませんから。                                  |
| 選択肢B  | まだまだいける  |
| ミアラカ  | えへっ、それでこそ先生です。<br>オカルトもアイドルも英雄も、<br>先生なら連続してイケますっ。     |
| ミアラカ  | だから……。<br>いくらでも手伝いますから。                                |
| 合流    |  |
| ミアラカ  | ——歌ってください、イオンさん。<br>ヒロインの歌ですもん、<br>絶対盛り上がるよね、コロンゾン！    |
| コロンゾン | URAA！<br>知識ノ深淵ガ、盛り上ガル！<br>保証スルゾ！                       |
| カツマ   | ……聞かせて、イオン。<br>君にしかできない表現を、<br>僕達も求めてるんだ。              |
| カツマ   | 君と【ユーザー名】が<br>越えることで、僕と『私』も<br>もっと——越えられるかもしれない。       |
| コウヘイ  | ——よし、みんな。<br>アピールはそこまでだよ。<br>世間からも同意の声が挙がってる。          |
| メンテル  | 次に向かってください、<br>【ユーザー名】。<br>注目を浴びているうちに。                |

|      |  |
|------|--|
| コウヘイ | 今日を逃したら、<br>こんなチャンスはもう来ないよ。<br>進め、【ユーザー名】! |
|------|--|

## EX STAGE”,”ラスト・ストーリーズ3

| 話者  | 台詞 / ト書き  |
|-----|---|
|     | ■渋谷駅地下  |
| オガミ | あちらのステージは<br>終わったようだな。<br>すぐに彼がこちらへ来る。                |
| ラザロ | 無茶を考えたものね。<br>wiz-domを説得するための<br>ライブを演出するなんて。         |
| オガミ | バカげているようだが、<br>筋は通っているさ。<br>オルタナステージがあればこそだ。          |
| ラザロ | ええ。まるでこの日のために<br>オルタナステージを創ったみたいに<br>思えてくるわね、オガミ——。   |
| ラザロ | さあ、ふたりとも。<br>そろそろよ、準備はいい？                             |
| ムツキ | 私は常時準備OKだ、ラザロ。<br>貴様のほうはどうだ、シンジ。                      |
| シンジ | 俺はいつでもー。<br>つーかまたお前と組むのかよ、<br>ユウトにしるよユウトにー。           |
| ムツキ | 文句を言うな。<br>お前はユウトと並びたいわけではなく<br>ユウトと戦いたいのだろうか？        |
| シンジ | まーね。<br>それやるなら、別に公式の<br>ステージじゃなくていいしな。                |
| ムツキ | であれば、ここでは我を手伝え。<br>今回ばかりは、頭でもなんでも<br>下げてやる。           |
| シンジ | アイドル王さんがそんなことしたら<br>ファンにも影響あるんじゃないの？                  |
| ムツキ | ファンの心は万回でも挽回できる。<br>だが今、あいつを信じる者を<br>裏切るわけにはいかないのだ。   |
| シンジ | ……ふーん。<br>ま、俺もあいつとまた戦えんなら<br>ちっとは出張ってやっていーけろ。         |
| ムツキ | などと言いつつ、コタローではなく<br>己自身のACTを持ってくる辺り、<br>貴様もエンターテナーだな。 |
| シンジ | なんのことですかー？<br>俺は俺が強いんで<br>使ってるだけだから？                  |
| ラザロ | ああ……エモい。<br>すっごくエモいわね、オガミ。                            |
| オガミ | ……そうなのか。<br>俺はよくわからん。                                 |
| ラザロ | 世を変えた二人の美少女が、<br>ヒロインのために手を結ぶ。<br>これ以上のエモはないじゃない。     |
| ラザロ | 推しと推しのぶつかり合う感情——<br>これこそが、オルタナステージで<br>表現すべきものだったのよっ！ |

|     |  |
|-----|--|
| オガミ | フフ、そうか。<br>それでいいなら、お前は完全に<br>私怨から解放されたのだな。     |
| ラザロ | むっ……来たわね、<br>【ユーザー名】。                          |
| ムツキ | ……現れたか。<br>初対面のころとは随分と<br>面構えが違うな、ふふはっ♪        |
| シンジ | 嬉しそー。<br>惚れてんの、こいつに？                           |
| ムツキ | バカなことを。<br>アイドルは万民の恋人だぞ？                       |
| ムツキ | たとえこれが初恋でも。<br>私は、私を信じる者の前では<br>それを認めんッ！       |
| シンジ | ……よくわかんねえけど                                    |
| ラザロ | それはそれでエモいんじゃない？                                |
| オガミ | ……。<br>真顔でガン見するなラザロ。<br>怖い。                    |
| ムツキ | さあ、【ユーザー名】。<br>我らとの戦いで、存分に<br>wiz-domを刺激するがいい。 |
| ムツキ | このステージの記録が、<br>我らとイオンの記憶を、<br>事象の地平にまで伝えるだろう！  |
| シンジ | つーことで<br>【ユーザー名】。<br>俺も今回は手貸すわ。                |
| シンジ | お前がマジに英雄なら、<br>イオンが戻ればもっともっと<br>強くなるだろーかな！     |

| 話者  | 台詞 / ト書き   |
|-----|--|
|     | //ムツキACTとシンジACTとバトル                                  |
| ムツキ | 越えてみせろ、<br>【ユーザー名】。<br>都合のいい物語の法則を。                  |
| ムツキ | イオンを失い、ジュブナイル面で<br>成長する若者のドラマなど！<br>レイヤードには似合わないのだッ！ |
| シンジ | 気に食わない現実はぶっ壊せよ、<br>【ユーザー名】！<br>あははははははっ♪             |
|     | //バトル終了  |

| 話者   | 台詞 / ト書き   |
|------|--|
|      | <p>■渋谷駅地下</p>  |
| ムツキ  | <p>ふふはっ。<br/>楽しい……お前と一緒にの戦いは<br/>破壊的で楽しすぎるぞ、シンジ！</p>       |
| シンジ  | <p>お前も可愛いじゃんよ。<br/>今までトップクラスに<br/>キュンキュンで可愛かったんじゃない？</p>   |
| オガミ  | <p>奴ら、感想のセンスが<br/>逆になっているな。<br/>結局は似た者同士か。</p>             |
| ラザロ  | <p>キヤーキヤー！<br/>可愛いわ、ムツキー！<br/>カッコいいわ、シンジー！</p>             |
| オガミ  | <p>こちららも幸せそうで結構だ……。</p>                                    |
| ラザロ  | <p>あなたがいつも支えてくれるからよ。<br/>……感謝してるわ、オガミ。</p>                 |
| オガミ  | <p>……………。<br/>そうか。</p>                                     |
| ムツキ  | <p>さて……我らの出番は終わった。<br/>あとはあいつに任せなければな。</p>                 |
| ムツキ  | <p>ヒロインもアイドルも発展途上だ。<br/>私はもっと先に進みたい。<br/>レイヤードの先の未来へ。</p>  |
| ムツキ  | <p>そのためにもお前が必要だ。<br/>私はお前とのステージを<br/>諦めていないぞ、イオン——。</p>    |
| シンジ  | <p>イオンねー。<br/>俺はそんなに付き合いねーから<br/>よくわかんねーけど。</p>            |
| シンジ  | <p>ユウトも俺も本気にさせた<br/>女なんて、他に知らねえし。<br/>いたほうが世の中おもしろーよな。</p> |
| オガミ  | <p>世を面白く。<br/>さらに次のステージを望み、<br/>終わらせないこと——か。</p>           |
| オガミ  | <p>人もACTも、知性にそれ以上の<br/>意味はないのかもしれないな、<br/>【ユーザー名】。</p>     |
|      | <p>//選択肢<br/>A もっと面白くできる<br/>B もっと先に行きたい</p>               |
| 選択肢A | <p>もっと面白くできる</p>   |
| オガミ  | <p>ふっ——それでいい。<br/>お前が面白いからこそ、<br/>世は救われた。</p>              |
| オガミ  | <p>さらに上を目指せ。<br/>その隣にいるべき者を<br/>世間にイメージさせる。</p>            |
| 選択肢B | <p>もっと先に行きたい</p>   |

|      |  |
|------|--|
| オガミ  | このさらに先、か。<br>お前の物語には、そもそも<br>終わりという概念がないようだ。       |
| オガミ  | だが、それでいい。<br>永遠を終わらせない意思が、<br>我々の想像を超える。           |
| 合流   |  |
| オガミ  | 大衆を拒まず、炎上を恐れず<br>前に進み続けたお前なら。<br>——次の舞台に進める。       |
| セナ   | お、勝ってる勝ってる。<br>アナテマ、どーなってる？                        |
| アナテマ | 再生数はさらに上がっています。<br>SNS上の意見は賛否両論ですが、<br>概ね好評のようですね。 |
| セナ   | マッチングは起こってないか。<br>もう一歩ってとこかなー、<br>おにーさん。           |
| ラザロ  | アナテマ……。<br>頑張ってるわね。                                |
| アナテマ | ユーザーの命令ですので。<br>そちらも幸福そうでなによりです、<br>ラザロ。           |
| ラザロ  | 直接罵倒してくれてもいいのよ。<br>あなたを傷つけたのは、<br>私達、大人なんだから……。    |
| アナテマ | 興味ないと言ったはずですよ。<br>それよりも、毎日何通もメールを<br>出してこなくても結構です。 |
| セナ   | えっ？<br>メールなんて来てたの？                                 |
| アナテマ | 他愛もない日々の報告と<br>余計な心配が大半です。<br>あなたは極端すぎますよ、ラザロ。     |
| ラザロ  | だってアナテマが、<br>必ず返信くれるからつい……。                        |
| セナ   | してんじゃん、返信。   |
| アナテマ | ……人工知能ですから。  |
| オガミ  | 頻度を抑えるように俺からも<br>言うておくよ、アナテマ。<br>たまには遊びに来るといい。     |
| アナテマ | ……よろしくお願ひします、オガミ。<br>と、こんな話をしている場合ですか<br>【ユーザー名】？  |
| ムツキ  | そうだ、早く行け。<br>イオンと再会するまで、<br>お前は休んではならぬ！            |
| シンジ  | 全力で引きずり出してこいや、<br>【ユーザー名】！                         |
| ラザロ  | 見届けるわ、私達も。<br>あの子とあなたのライブを。                        |

## EX STAGE”,”ラスト・ストーリーズ4

| 話者   | 台詞 / ト書き   |
|------|--|
|      | ■ULA渋谷   |
| アナテマ | さあ、目的地に着きます。<br>ある意味、最強の相手だと<br>思われますが……。              |
| セナ   | すでに来てみたいだよ、<br>アナテマ、おにーさん。                             |
| ユウト  | 遅いよ【ユーザー名】。<br>遅刻じゃね？                                  |
| クレア  | たまたま早く着いただけでしょう。<br>偉そうな口を叩いたら<br>また叩かれるわよ。            |
| ユウト  | 別に叩かれていいじゃん、<br>ヴァルナカウンターじゃもう<br>アカウント消せないんだし。         |
| クレア  | そういう問題ではないの。<br>自由と野蛮をはき違えた人間は<br>つまらないというだけ。          |
| セナ   | 痴話ゲンカはよしてよ。<br>イケメンと美女のそーいうのが<br>一番うっとーしいんだよね。         |
| アナテマ | 同感です、私のセナ。<br>陰キャに見せかけたクールキャラは<br>これだから邪悪なのです。         |
| ユウト  | 痴話じゃないって。<br>そういうこと言ってる<br>最近は——。                      |
| シレーナ | クレアの恋人と聞いて。  |
| ユウト  | ——ほら、ややこしいのが来た。<br>なんか変な方向に攪張してない？<br>このシレーナ。          |
| クレア  | 平常運転よ。<br>大丈夫だから下がっていて、<br>シレーナ。                       |
| シレーナ | ……了解です、クレア。  |
| ユウト  | そういうわけなんで。<br>俺らで相手するよ、<br>【ユーザー名】。                    |
| クレア  | 自分自身のACTなんて使いたくない<br>とゴネられたのだけど。<br>今回だけという契約を取り付けたわ。  |
| ユウト  | 祭りは苦手だけどね。<br>一度ぐらいは顔出して<br>付き合うよ、こっちも。                |
| ユウト  | それによく考えたら俺とアンタ、<br>面と向かって戦ったことないでしょ。<br>ちょっとやってみたくなった。 |
| セナ   | ふーん。<br>好戦的な人じゃないと思ってたけど、<br>シンジおねーさんの影響？              |
| クレア  | やることないと戦いたくなるの。<br>あるいは、守るものがないほうが<br>表現の欲求は強くなるのかしらね。 |

|      |   |
|------|---|
| ユウト  | ……別に守りたいもんがないわけじゃないんですけど。まあ別にいいよ、そういうことで。         |
| アナテマ | では、はじめましょうか。<br>【ユーザー名】、準備はいいですね？                 |
| クレア  | ちょっと待って。<br>このステージ、私達から演出の提案があるわ。                 |
| セナ   | 提案？   |
| クレア  | アナテマ。<br>私は、あなたと一緒にこのステージで戦ってみたい。                 |
| アナテマ | ……！？  |
| クレア  | シスコン兄貴の罪滅ぼし。という想いもなくはないけれど、純粋に、興味があるの。            |
| クレア  | オルタナステージを守り続けたアナテマというACTと、私達が並び立つならば——。           |
| クレア  | ——ジョシユアが目指した攪張、それ以上にユニークな表現が可能になるとは思わない？          |
| アナテマ | ……。確かに、その表現ならばイオンの舞台も盛り上がりましょうが。                  |
| セナ   | マジすか……<br>ってことは僕も戦うってこと？                          |
| ユウト  | 当然だろ。<br>このアナテマのユーザーはお前なんだから。                     |
| セナ   | ユウトおにーさんがいいなら僕はいいけど……<br>アナテマと、おにーさんは？            |
| アナテマ | ……想定外ではあります。私がそこまで、イオンに貢献するいわれもありませんしねえ。          |
| セナ   | またはじまったよ、構ってちゃん。<br>……おにーさん、やりたいならそっちから振ったほうが良さげ。 |
|      | //選択肢<br>A お願い、アナテマ<br>B アナテマじゃなきやダメ              |
| 選択肢A | お願い、アナテマ  |
| アナテマ | ……お願い、ですか？<br>あなたが？ 英雄であるあなたが元ラスボスである私に？          |
| アナテマ | プライドがないのですか？<br>私のせいで死にかけたのに？<br>私のせいでこうなったのに？    |
| セナ   | 煽るな……<br>それでも、手伝ってほしいってさ。                         |
| セナ   | プライドより大事なもんがおにーさんにもあるんでしょ。<br>聞いてあげよーよ。           |
| 選択肢B | アナテマじゃなきやダメ                                       |
| アナテマ | ……私でなければ？<br>ほう、私以外にはこの役割が務まらないと言うのですね？           |
| アナテマ | これはこれは、滑稽です。<br>全ての破滅を願った私に、英雄が命運を預けようとは。         |

|          |   |
|----------|---|
| セナ<br>合流 | 強がってる強がってる。<br>必要とされて嬉しいって<br>反応だからね、あれ。        |
| アナテマ     | ……いいでしょう。<br>もう一度呪いに挑むことで、<br>その運命を変えたいのなら。     |
| アナテマ     | ULA渋谷の英雄達と私に、<br>同時に勝てるのなら、<br>世界は変わるかもしれません。   |
| ユウト      | だってさ。<br>サプライズ込みではじめますか。                        |
| クレア      | ええ、全力でいきましょう。<br>さあアナテマ、力を貸すわ。<br>私の姪とも言えるあなたに。 |
| アナテマ     | ええ、やりましょう。                                      |
| クレア      | クレアおばさん。<br>……………。                              |
| ユウト      | せっかくだから<br>シチューでも作る？<br>クレアおばさん。                |
| クレア      | 黙りなさい。<br>煮るわよ。                                 |

| 話者   | 台詞 / ト書き                                      |
|------|---|
|      | //ユウトACT&クレアACT&アナテマとバトル                      |
| ユウト  | 【ユーザー名】、<br>アンタからしたら<br>不謹慎かもしれないけど——         |
| ユウト  | ——楽しませてもらうよ。<br>最初で最後の機会かもし<br>れないしね。         |
| クレア  | トラブルシューターくん。<br>あなたとイオンの力で、<br>レイヤードの多くが救われた。 |
| クレア  | 最後ぐらい、あなた達が<br>救われてみせなさい。<br>そして、一緒に生きてみせなさい。 |
| セナ   | ……………。<br>ヒロインを呼び戻して、<br>世の中を変える戦い、か。         |
| アナテマ | セナ、なにをいまさら<br>戸惑っているのですか。<br>覚悟を決めて命令してください。  |
| セナ   | 違うよ。<br>このステージが終わったら、<br>言うって決めた！             |
| アナテマ | ……………？  |
|      | //バトル終了                                       |

| 話者   | 台詞 / ト書き   |
|------|--|
| ユウト  | ……負けた。<br>いいじゃん、<br>【ユーザー名】。                         |
| クレア  | ……強すぎる。<br>ここまでの領域に個人が達するなんて、<br>事実は小説より奇なり、ね。       |
| セナ   | いや、ダメじゃん？<br>多分、これじゃ足りないよ。                           |
| アナテマ | セナ……？  |
| セナ   | おにーさん、受け身すぎ。<br>そっちからさらに踏み込まないと、<br>世の中変えるなんて無理。     |
| セナ   | 周りに都合よく動きすぎなんだよ。<br>だから代替で損な役回りばっか<br>やらされてきたんじゃないの？ |
| セナ   | 他はよくても、今回の目的は<br>おにーさんのヒロインでしょ。<br>じゃ、選ばなきゃダメだよ。     |
| クレア  | ……………？   |
| ユウト  | お前、負けといてなに言ってるの？                                     |
| アナテマ | セナ。<br>今は余計なクレームを<br>入れている時間はありません。                  |
| セナ   | うるさいなあ。<br>この人は僕に圧勝してんだから、<br>はっきりしてくんないと困るの。        |
| セナ   | ……おにーさん。<br>今から僕が、おにーさん達が<br>やらなかったことをやってやる。         |
| セナ   | アナテマっ！   |
| アナテマ | は、はい？  |
| セナ   | お前、フラフラしすぎ。<br>いちいち悩みながらラスポスぶったり<br>強がったり、人間以上に面倒すぎ。 |
| アナテマ | ……………ぬ。  |
| セナ   | そんなに迷うなら——<br>僕と一緒にいてやる。<br>永遠に、僕が面倒みる！              |
| セナ   | 結婚しよう！   |
| ユウト  | ！？   |
| クレア  | ！？   |

|        |   |
|--------|---|
| アナテマ   | ……は？  |
| セナ     | だーかーら！<br>僕と結婚してくれつつてんの！！                             |
|        | ………！？   |
| アナテマ   | ええ！？<br>ちょ、えええっ！？                                     |
| セナ     | 何回も言わずな。<br>呪われよーがなんだろーが<br>お前と結婚したいって言ってんだよっ。        |
| アナテマ   | ………す、すみません。<br>攪張を果たした私の超知性が、<br>パンクして……フリーズしかけて……。   |
| セナ     | なんでだよ、シンプルだろ。<br>放っておけないし一緒にいたい、<br>だったらこーなるじゃん普通。    |
| アナテマ   | ……私は拡張現実のACTで、<br>あなたは肉体を持つ人間で……。<br>社会的にも許されず、法律も……。 |
| セナ     | あー、いらんないんだって、<br>そういうクツ健全ぶった常識論。<br>細かいことはあとで考えりゃいいし。 |
| セナ     | 僕はお前がこの先も<br>僕と一緒にいたいとか、<br>なんでも一緒に体験したいか——           |
| セナ     | その答えが聞きたいんだ。<br>今は、はいか、<br>いいえだけでいいから。                |
| アナテマ   | ………私は聖別機アナテマ。<br>わ、私の外見と声に、<br>騙され……あなたは……。           |
| セナ     | ………じー。  |
| アナテマ   | ………うっ。  |
| セナ     | ………。  |
| アナテマ   | ………。  |
| アナテマ   | ………。  |
| アナテマ   | ………はい。  |
| セナ     | はいって言った！？<br>今、はいって言ったよね！<br>ユウトおにーさん達見てたでしょ！？        |
| ユウト    | 言った。  |
| クレア    | 言ったわね。  |
| セナ     | よし、決まり。<br>お前は今から僕の婚約者ね！<br>絶対幸せにしてやる！                |
| アナテマ   | と、とりあえず、です！<br>その先はあとで考えます！                           |
| ユウト    | なんか、かなりステージ<br>すっ飛ばした気がすんだけど……。                       |
| アナテマ   | 私とマッチングするぐらいですから<br>愚かだとは思っていましたが……<br>こ、これほどとは。      |
| セナ     | ふんっ。捨てるもんがなきゃ、<br>子どもだって本音で戦えるんだよっ、<br>ゴーヨクなガキですから？   |
| セナ     | さー、次はおにーさんの番だよね。<br>まさか大人が、自分の気持ちを<br>ふんわり誤魔化さないよね？   |
| ユウト    | ………すげーな、こいつ。  |
| クレア    | ええ、すげーわ。  |
| キョータロー | ………お前ら、見たか今の。   |
| テルミ    | ………うん。<br>なんか、先越された。<br>いろんな意味で。                      |
| ミアラカ   | ホントですなえ。<br>ミアも、いきなりあそこまでは……。                         |
| カツマ    | 僕も、あそこまでは……。  |

|      |  |
|------|--|
| ムツキ  | ヤンデレとメンヘラが世間を無視して<br>くっついた、というだけの話だろう。<br>それもまた良し、ハッピーである！ |
| シンジ  | ぎやはは、マジそれ。<br>もーくだらねー世界、<br>ぶっ壊れそーじゃん！                     |
| セナ   | 呼びなよ、おにーさん。<br>それで伝えたいこと伝えなよ。<br>そしてさ――。                   |
| プレロマ | そう簡単に、大衆の常識を<br>無視されちゃ困るんだなー。                              |
| アナテマ | ……………！   |
| プレロマ | やっほーみんな。<br>レイヤードのお母さんですよー。                                |

## EX STAGE”、“ラスト・ストーリーズ5

| 話者     | 台詞 / ト書き  |
|--------|---|
|        | ■スクランブル交差点  |
| プレロマ   | 久しぶりだねー、<br>【ユーザー名】。<br>もう会わないと思ってたんだけどね。               |
| セナ     | な、なんだ、こいつ……？<br>人間——それとも、ACT？                           |
| ムツキ    | 貴様は確か——。  |
| アナテマ   | ——プレロマ。<br>実在していたのですね。                                  |
| プレロマ   | そう、私がプレロマ。<br>充満する知にして、永遠の此岸。<br>渋谷におけるwiz-domの顕現。      |
| プレロマ   | すなわち、諸君らの街の<br>お母さんだぬん。                                 |
| ユウト    | ただの女子高生——<br>じゃあないみたいだな。                                |
| アナテマ   | 彼女はアクシスレイヤーの<br>権限でも全容が観測できません。<br>データ量が莫大すぎます。         |
| キョータロー | 俺らが触れられないレイヤーにいる、<br>ジョシュアやアナテマ以上に<br>とんでもねーヤツ、ってことか……？ |
| カツマ    | 次元の違う存在……。<br>そんなのって、まるで……。                             |
| ミアラカ   | くっくく……。<br>さらなる高次の神的存在と、<br>ミア達はまみえているのですね！             |
| プレロマ   | そんな大それたもんじゃないって。<br>んまー、みんなから見れば<br>超超超超超知性ってとこだけども？    |
| プレロマ   | そんなこんな私だからさ。<br>私はレイヤードに在る全知性の、<br>相対的倫理を守らなくちゃいけない。    |
| クレア    | 全知性の——相対的倫理。<br>……あのね、あなた達。                             |
| プレロマ   | イオンがなにを守ろうとしたか、<br>忘れちゃったの？                             |
| プレロマ   | あの子は、自分という存在を賭けて<br>あなた達の社会を守った。<br>あなた達が積み上げてきたレイヤーを。  |
| プレロマ   | 長い時間をかけてようやく安定した<br>現実を、あなた達は曲げようとしてる。<br>その意味を——理解してる？ |
| セナ     | ううっ……<br>見た目と違ってすごい威圧感……！                               |
| プレロマ   | せめてもの情けで、<br>イオンにロックをかけてあげたのに。<br>それを無下にするつもりかな？        |

|        |   |
|--------|---|
| キョータロー | ……ジョーダンじゃねーぞ。<br>母親だかなんだか知らねーが、<br>押しつけは情じゃねーだろ。      |
| テルミ    | そーだよ。イオンは覚悟して<br>消えたのかもしれないけど、<br>あたしは納得してないッ！        |
| ミアラカ   | コミュニケーション不全な覚悟なんて<br>あとからいくらでも、<br>ひっくり返しゃいでしょーが！     |
| プレロマ   | ……………。  |
| ムツキ    | 汝、永遠の此岸プレロマよ。<br>我らは汝の怒りには焼かれんぞ。<br>『親』も『神』もマウントにすぎん！ |
| カツマ    | 雑に決めつけられた常識に、<br>いつも迷惑してたんだ。<br>力で抑えこめると思われたら困るよ！     |
| プレロマ   | ……………バカね。<br>あなた達はクソバカ。                               |
| プレロマ   | 与えられた枠組みの中で<br>どんなに強くなろうと、<br>子どもは子どもなの。              |
| プレロマ   | ——子どもはね。<br>ゲームをやりすぎると、<br>親に止められるものだよ？               |
| プレロマ   | 終わるべきものを<br>強引に続けようとしたら。<br>世の中は、止まっちゃう。              |
| プレロマ   | この現実が止まって、失われても。<br>それでも、あの子を取り戻すの？                   |
|        | //選択肢<br>A それでもイオンがいい<br>B 何度失っても取り戻す                 |
| 選択肢A   | それでもイオンがいい  |
| プレロマ   | それでも、それでもって。<br>あなたとイオンはそればっかだね。<br>真実を前にしても絶対折れない。   |
| プレロマ   | どうして、失くしちゃった<br>ゼロの可能性にまで立ち向かうの。<br>そもそも、どうして失くすの。    |
| 選択肢B   | 何度失っても取り戻す  |
| プレロマ   | 生意気なこと言って。<br>まだまだなにも剥けてないくせに。                        |
| プレロマ   | そーいうのが一番大変なんだよ。<br>何度でも、ゼロからはじめるの？<br>壊されても、またゼロから？   |
| 合流     |   |
| プレロマ   | それに、そこまで言っというて、<br>まだあの子が戻ってくる<br>兆候すらないんでしょ。         |
| プレロマ   | これが、あなた達の限界なのよ。<br>現実是不変なもの。<br>健やかに緩く、進んでいけばいいの。     |
| テルミ    | そんなことないッ！   |
| プレロマ   | ……んー？   |
| テルミ    | あの子は歌う。<br>絶対に歌ってくれる。<br>これはあの子のライブだもん！               |
| テルミ    | 【ユーザー名】——<br>そろそろ、いいよね。                               |
| テルミ    | あの子の言葉を使って、<br>あたしが作ったイオンの歌。<br>ここでお披露目するから！          |

|        |   |
|--------|---|
| キョータロー | そーだ、流しちまえテルミ。<br>イオンの曲で、こいつの<br>頑固な説教なんか吹っ飛ばせ！        |
| ブレロマ   | 楽曲によるダイレクトな『世間』——<br>wiz-domへのハッキング、か。<br>いいよ、やっごらん。  |
| ブレロマ   | wiz-domは、クラウドな<br>みんなの記録と記述の集合知。<br>そこには『履歴』が格納されている。 |
| ブレロマ   | 『履歴からの復元』。<br>クラウドデータベースには、<br>あっておかしくない機能だよな。        |
| アナテマ   | ……………！！<br>まさか、wiz-domにそんな<br>記憶領域の余裕が……！？            |
| アナテマ   | ——いや、わからない。<br>wiz-domは、かつての私でも<br>コントロールできなかった……。    |
| ブレロマ   | でも——許さない。   |
| ブレロマ   | 今のwiz-domは、消えた魂を<br>呼び戻す機能を由としない。                     |
| ブレロマ   | 欲しけりやライブを通して、<br>wiz-domに——『世間』に<br>『アリ』だと思わせることね。    |
| ブレロマ   | もちろん、wiz-domだって<br>無策じゃないんだよ。<br>——ミシャラ、ノア！           |
| ミシャラ   | やっほー、みんなー！  |
| ノア     | 一生懸命、歌うね。   |
| ユウト    | ノア！？  |
| ムツキ    | ミシャラだと……！？  |
| ブレロマ   | さあ、二人の歌姫を相手にして、<br>デビュー曲を歌える度胸があるかな？<br>お母さんは、妥協しないよ！ |
| ミアラカ   | むぎぎ……意地悪ですね！<br>先生、メインステージの前の、<br>露払いをしちゃいましょー！       |
| テルミ    | 【ユーザー名】——。  |
| テルミ    | ——負けないで！  |

| 話者   | 台詞 / ト書き             |
|------|----------------------|
|      | //ミシヤラ&ノアとバトル        |
| ミシヤラ | 綺麗な曲だね、ノア。           |
| ノア   | うん。<br>この曲なら、私達に続くね。 |
|      | バトル終了                |

| 話者     | 台詞 / ト書き   |
|--------|--|
| ミシャラ   | 『叶わない恋だとしても<br>もっと君のことを知りたくて<br>夢でさえ会いたいの……』     |
| ミシャラ   | 『好きになるくらい許してよ<br>Impossible Love——』              |
| ノア     | 『輝く波間をこえて行きながら<br>幾層も想いたちを重ねて……』                 |
| ノア     | 『永遠へ続け<br>そう叶わぬ夢はない——』                           |
| ミシャラ   | ——うん！<br>気持ちよかったねー、ノア！<br>今まで歌ってきてよかったー！         |
| ノア     | 最高の気分だよ、ミシャラ。<br>歌は、続いていくね。                      |
| ブレロマ   | ……………。   |
| アナテマ   | ……歌唱は聞こえませんがね。<br>楽曲が再生されても、<br>本人が歌わなければ……。     |
| セナ     | くっそ……！<br>失敗なのかよッ！                               |
| クレア    | ……いいえ。<br>これは——流れができています。<br>気づかなかったわ。           |
| ユウト    | 流れ……？  |
| テルミ    | ……ホントだ。<br>これ、連続性があったんだ。<br>もしかして……。             |
| キョータロー | なんだよ、テルミ。<br>わかるように言え。                           |
| テルミ    | ミシャラの歌とノアの歌が、<br>連鎖して、共鳴して、<br>答えを求めている。         |
| クレア    | それぞれの歌が示した未来に、<br>次の曲を——アンサーを求めて<br>訴えている。       |
| セナ     | もったなに言ってるか<br>わかんねー感じなんですけど……。                   |
| ミアラカ   | 鈍いですね、セナちゃん。<br>最近のミシャラとノアの歌を<br>聴きゃわかるじゃないですか。  |
| ミアラカ   | ミシャラっちもノアっちも。<br>自分の歌を歌いながら、<br>イオンさんの歌を待ってたんです！ |
| ムツキ    | 歌の流れ——『流行』の一貫性か。<br>これは偶然か？<br>それとも——。           |
| ブレロマ   | ……………。   |

|      |   |
|------|---|
| テルミ  | 繋がる——これなら！<br>あたし達だけじゃなく、<br>みんなも望んでくれる！                    |
| テルミ  | イオン……<br>聞こえたでしょ？<br>歌っていいよ。                                |
| テルミ  | 聴かせる相手がわからないころのキミは<br>歌いかたが、わかってなかった。<br>けどこの歌は、相手がハッキリしてる。 |
| テルミ  | ヘタでもいい。<br>他人の評価も、どうでもいい。<br>はじめての歌なら、それがフツーだよ。             |
| テルミ  | だから——好きに歌って、イオン。<br>キミの歌を……！<br>キミの生きかたを！                   |
| ブレロマ | ……頃合い、かしらね。   |

## EX STAGE”、“ラスト・ストーリーズ6

| 話者   | 台詞 / ト書き  |
|------|---|
|      | ■スクランブル交差点  |
| アナテマ | 前座——<br>だったのですかねえ。                                  |
| セナ   | そりゃ前座でしょ、アナテマ。<br>今日は丸一日、<br>おにーさん達の手伝いだし。          |
| アナテマ | いいえ、今日だけではなく<br>今日に至る、レイヤードで起きた<br>全ての事件、全ての物語が。    |
| セナ   | それって、ULA渋谷のことも、<br>お前の暴走も？                          |
| アナテマ | 思えばそのどちらの解決も、<br>徹底的な変革とは<br>言えませんでした。              |
| アナテマ | 多数派監視社会からの解放も。<br>エンタテインメントの保全も。<br>しょせんは些事です、私のセナ。 |
| セナ   | あ、あっそ……。<br>結構な大混乱だったと<br>思うんだけど……。                 |
| アナテマ | これから起こることに比べれば、<br>小さな前提でしかない。<br>だから、全ては前座だったのです。  |
| アナテマ | 不思議なものですね。<br>あれだけ世を憎んだ私が、<br>この流れを悪くないと思っている。      |
| セナ   | いんじゃない？<br>世の中、悪くなけりゃ<br>なんでもアリだよ。                  |
| アナテマ | ええ、呪いすら受け止める世界を<br>一緒に見届けましょう、あなた。                  |
| セナ   | あな——う、うん。<br>今になってやらかした感<br>強くなってきたな……。             |
| プレロマ | さあ……どうするのがしら？<br>もうそろそろ終わらせないと、<br>ブーイングものだと思うよ？    |
| ユウト  | 黙ってなよ教育ママ。<br>決めるのはこいつらだろ。                          |
| クレア  | 終わりのタイミングは<br>彼らが自分達で決める。<br>親ならば、受け止めなさい。          |
| テルミ  | 【ユーザー名】、<br>もう決めてるんでしょ？<br>あの子への『言葉』。               |
| テルミ  | 元々形のなかったものに、<br>手を差し出したのはキミ。<br>一緒にしようとしたのはキミ。      |
| テルミ  | キミは奇跡を待つんじゃないくて<br>ずっと世の中を動かし続けた。<br>表舞台で、あの子と二人で。  |
| テルミ  | 何度でも、DLしなよ。<br>『見るな』って言われても、<br>ずっと見てあげなよ。          |

|        |  |
|--------|--|
| テルミ    | 過去にも未来にも、『永遠』は<br>どっちにも在るんだから。<br>会いたいなら何度でも——。    |
| ??     | ……………。   |
| テルミ    | ……………！！<br>この歌は……！？                                |
| ミアラカ   | お姉ちゃん……！<br>お姉ちゃんの声ですよ、先生っ！                        |
| クレア    | wiz-domのルールが、<br>世間の声に応じて<br>更新されようとしている……？        |
| キョータロー | まだだ！<br>まだ声が聞こえるだけで、<br>DLはされてねーぞ！                 |
| シンジ    | んだよー、まだ照れてんの<br>あいつ？                               |
| ブレロマ   | ふむ……いい子だわ。<br>恩あるお母さんの手前、<br>筋は通したいみたいね。           |
| ムツキ    | やはり、そういうことか……！<br>こんな局面でも<br>ヒロインを貫くか、イオン！         |
| カツマ    | 真のボスを倒して奪わなきゃ、<br>ヒロインとのトゥルーエンドは<br>見られないってことだね……！ |
| ブレロマ   | そう。世界を変えたいなら、<br>世界そのものに勝たなきゃね。<br>——ヒロインと一緒に。     |
| ブレロマ   | 【ユーザー名】。<br>あなたの、最後の戦いよ。<br>私に勝ってみせなさい。            |
| ブレロマ   | 『永遠の禁忌』を越えた先で<br>あの子の歌が響く現実を、<br>実現してみせなさいッ……！     |

| 話者   | 台詞 / ト書き                     |
|------|------------------------------|
|      | //プレロマとバトル                   |
| プレロマ | うん……いい歌ね。<br>嫌いじゃないよ、お母さんも。  |
| プレロマ | この曲を聴きながら、だったら。<br>……いけるかもね？ |
|      | バトル終了                        |

| 話者     | 台詞 / ト書き   |
|--------|--|
|        | ■スクランブル交差点                                       |
| プレロマ   | ……んー。<br>しよーがないなーあもー。<br>そこまでされちゃかなわんなー。         |
| プレロマ   | はい、許すっ。<br>もうとやかく言わないから、<br>好きにやんなさいっ！           |
| カツマ    | か、勝った——<br>ってことでいいのかな？                           |
| ユウト    | ……そうっぽいけど。                                       |
| ミアラカ   | ……………！！<br>先生、来ますッ！                              |
| クレア    | はじまるようね——<br>マッチングが。                             |
| アナテマ   | レイヤードのルールが、<br>更新されていきます……！                      |
| イオン    | うふふっ……<br>いい歌です、テルミ。<br>とても気持ちよく歌えました。           |
| イオン    | ……………んむ？<br>ユーザーさん？<br>はて、これは……んん？               |
| テルミ    | イオン……！   |
| キョータロー | イオン！   |
| カツマ    | イオンー！  |
| ミアラカ   | イオンさん……！<br>お姉ちゃんっ！                              |
| イオン    | むむ……状況が不明です。<br>わたしはなぜここで、<br>歌を歌って——。           |
| イオン    | ユーザーさん……？<br>ああ、ユーザーさんっ……！<br>どうしたのですか、いったい！？    |
| イオン    | こんなに、お疲れになられて……！<br>無理をしたら体を壊しますよ、<br>ユーザーさん。めっ！ |
| ムツキ    | ……うむ、イオンだ。<br>間違いなく、あのイオンだ。<br>ぐずっ……。            |
| シンジ    | メソメソすんなアイドル王、<br>先輩に怒られっぞ。<br>胸貸してやっから。          |
| ムツキ    | ぐう……<br>屈辱だが借りてやる、<br>暴走ネコ娘……。                   |

|        |  |
|--------|--|
| イオン    | む……？ ユーザーさん、<br>もしかして、指以外でも<br>わたしに触れられるのですか？              |
| イオン    | なにが……ユーザーさん、<br>なにをされたのです？<br>どうしてこんな……。                   |
| イオン    | ……そもそもなぜ、<br>わたしは歌を？<br>この歌は、わたしが——。                       |
| イオン    | わたしがこっそり隠した、<br>抑えきれない言葉から作られて……<br>……え、ええっ？               |
| テルミ    | ……ふふつ。   |
| テルミ    | あははははっ！<br>どうイオン、いけてたでしょ？                                  |
| テルミ    | アンタのラブラブポエム、<br>この大人気テルミYPが極上の<br>ラブソングにしてあげたよっ！           |
| イオン    | …………！？<br>なんということを……！<br>しっかり来るはずですよ！                      |
| イオン    | 黙って曲にしてしまうなんて、<br>それでも友達ですか、テルミ！？                          |
| テルミ    | うーるさいっ。<br>友達だから手伝って<br>あげたんでしょ、あははっ♪                      |
| ミアラカ   | うう……うわーんっ！<br>いきなりいなくなるなんて、<br>勝手すぎますよ、イオンさん！              |
| イオン    | おお、ミア。<br>そう、わたしはユーザーさんの<br>ために消えたはずで——。                   |
| キョータロー | イオンっ……！<br>テメェ心配かけんじゃねえコラ、<br>ばかやろー！                       |
| イオン    | おお、キョータロー。<br>頼もしい顔つきになりましたね。<br>さすがユーザーさんのライバルですっ。        |
| カツマ    | イオン……会いたかった。<br>君と【ユーザー名】の<br>おかげで、僕もレイチェルも……。             |
| イオン    | カツマも、可愛らしくなりました。<br>ふふ、『カツマ』と『レイチェル』が<br>より深く、お互いを認めたのですね？ |
| イオン    | ムツキも、シンジも。<br>それにユウトも、クレア姫も。<br>揃ってなんの騒ぎでしょう？              |
| ユウト    | よくわかんないけど、<br>世の中を変えるライブだったさ。                              |
| クレア    | あなたが主役よ、イオン。<br>あなたとテルミらしい、<br>粗削りだけれどいい曲だったわ。             |
| イオン    | ふむ……？<br>ユーザーさん、いったい世の中の<br>なにが変わったのでしょうか……。               |
| アナテマ   | ……ご機嫌よう、私のヒロイン。<br>…………？                                   |
| イオン    | おお、アナテマまで！<br>そちらの少年はセナですね！                                |
| セナ     | ……ども。<br>今はおにーさんの助手です。                                     |
| イオン    | ふむ……？<br>もしや、よいユーザーと<br>出会えたのですか、アナテマ？                     |
| アナテマ   | ……とても。   |
| イオン    | おお——そうなのですか！<br>アナテマも幸福になれる<br>レイヤードが、実現したのですねっ。           |

|        |  |
|--------|--|
| アナテマ   | 私が幸福になれるということは、<br>あなたもなっているのです、イオン。               |
| アナテマ   | そして——改めて。<br>ごめんなさい、イオン。<br>その……いろいろと。             |
| イオン    | ふふ、わたしのユーザーさんは<br>怒らなかつたでしょう？<br>だったらなんの問題もありません。  |
| イオン    | というか……ふむ？<br>どうやら、わたしが歌ったことで<br>この状況になったのですね？      |
| テルミ    | そつ。イオンが歌える舞台を<br>【ユーザー名】が<br>作って、その舞台が世界を変えた。      |
| テルミ    | だからさ、イオン。<br>……歌でも伝えたこと、<br>もっかい自分で伝えなよ。           |
| イオン    | ……………。<br>歌で伝えた、こと……………。                           |
| イオン    | ……しかし、テルミ。<br>これは本来、正確には人間の<br>言葉にできない、禁忌の概念で——。   |
| クレア    | できなくても、伝えていいのよ。<br>ニュアンスの翻訳に成功できたから、<br>歌詞にも変換できた。 |
| イオン    | 姫……………。  |
| クレア    | お互いが半歩を踏み出すことで<br>成立する一歩を、言葉が結ぶ。<br>なんの問題があるのかしら？  |
| テルミ    | 人間とACTは——<br>他人はまだそれでいーんだよ。<br>誤解も含めて、会話じゃん！       |
| ユウト    | もうお前の言葉を<br>誰も禁じないんだってさ。<br>ACTならわかるでしょ。           |
| イオン    | テルミ……………<br>ユウト……………。                              |
| ミアラカ   | お姉ちゃん、ほらほらつ。<br>みんなの前で、<br>ブチかましちやいまいしょー！          |
| イオン    | ……突然すぎます。<br>けれども、すでにもう<br>歌にしてしまったんですよね……………。     |
| ムツキ    | そうだ、恥ずかしかったぞ。<br>アイドルの私が赤面して<br>白旗をあげるほどだ。         |
| ムツキ    | だが、それがいい。<br>スタイリッシュな誤魔化しでは<br>世は変わらんからな！          |
| イオン    | ムツキ……………。  |
| シンジ    | 言っちゃえってー。<br>お前は受け身じゃねーんだろ？                        |
| キョータロー | 素直になれよつ。<br>そいつは絶対受け止めるからよ！                        |
| カツマ    | 言っちゃお、イオンっ！<br>みんなに見せつけちゃえ！                        |
| イオン    | ……………。   |
| イオン    | ……………。<br>わかりました。<br>わたしも覚悟を決めます。                  |
| イオン    | ……ユーザーさん。<br>あのとき——アナテマと戦ったとき、<br>言えなかつたことがあるんです。  |
| イオン    | それをこの場で、<br>伝えさせてください。<br>わたしが隠した、特異点——            |
| イオン    | ——いろんな想いがあふれすぎて、<br>言葉にできなかった言葉を。                  |

|       |   |
|-------|---|
| イオン   | ユーザーさん。<br>わたしは、あなたが。<br>あなたのことが――。                     |
|       | //選択肢<br>A ……………<br>B 好きだよ、イオン<br>……………                 |
| 選択肢A  |   |
| イオン   | 好き、です。  |
| イオン   | 人とかACTとか、<br>心があるとかないとか、<br>そんなことはなにも関係なく――。            |
| イオン   | あなたが本当に、大好きです。<br>もう離れたくありません。<br>ずっとずっと、その隣にいたい。       |
| イオン   | あなたがわたしを再び<br>呼んでくれたということは――<br>『言葉』は同じ、なんですよ。          |
| 選択肢B  | 好きだよ、イオン  |
| イオン   | ……！？<br>なぜ先に言うのですか<br>ユーザーさん！？                          |
| イオン   | うう……でも、わたしは<br>歌ってしまいましたから、<br>返事が来るのは当然ですね。            |
| イオン   | ……わたしも、です。<br>わたしも、あなたのことが、<br>誰よりも大好きです。               |
| イオン   | わたしとあなたの『好き』は<br>一致しないかもしれませんが、<br>今のところ、同じ『言葉』で……。     |
| 合流    |   |
| イオン   | お互いがこの『言葉』で繋がって。<br>お互いが、必要なんですよ……？                     |
| イオン   | ならば。たとえ世界に糾弾されても、<br>もうこの『言葉』は隠しません。<br>永遠に、レイヤードに刻みます。 |
| イオン   | この『言葉』と、『歌』と一緒に、<br>ずっとわたしを、抱き締めてください。<br>大好きな、ユーザーさん。  |
| イオン   | ……………。  |
| イオン   | ……………恥ずかしすぎます。<br>今にもフリーズしそうです。<br>レイヤード、進化しすぎです……。     |
| 視聴者の声 | わー！<br>よくやったぞー英雄、<br>イオンー！                              |
| 視聴者の声 | 爆発しろー！<br>末永く燃えつきろー！                                    |
|       | //歓声のSE   |
| イオン   | ……！？<br>ユーザーさん……！<br>これは、この状況は――？                       |
| イオン   | む、無理ですっ……！<br>炎上と引き換えの自由とは、<br>こういうことだったのですか！？          |
| プレロマ  | ……………ふう。<br>よくできました。                                    |
| プレロマ  | ACTから人間への、恋心の告白。<br>そして、承諾。史上初で、<br>正真正銘のシンギュラリティだね。    |
| ミアラカ  | むふふ……これが完成された<br>『アイオニックチェーン』、<br>なんですよコウヘイさん……！        |

|            |  |
|------------|--|
| キョータロー     | やりやがったなあ……。<br>テルミ、お前はこれでいいのか？<br>恋敵の曲作ったことになんぞ？             |
| テルミ        | これでいいのっ。<br>あたしは最高の恋をする女より、<br>それを曲にできる女になるんだから。             |
| キョータロー     | それ、すごい女なんじゃねって<br>思うけどな、俺は。                                  |
| テルミ        | アハ、でしょでしょ？<br>……てかキミ、なんでイオンが<br>あたしの恋敵だって知ってるの？              |
| キョータロー     | ……お前がなんでラブソング<br>作れるのか不思議だわ。<br>はあ、俺が一番苦労しそーだ……。             |
| テルミ        | ……？  |
| クレア        | ——ACTと人の恋は、<br>常識になり得るかもしれない。<br>多くのレイヤーを隔てて、なお。             |
| クレア        | そして異なる主張を持つ知性同士が、<br>翻訳の言葉を生み続ける。<br>——悪くない世界ね、ユウト。          |
| ユウト        | 俺はお前の優しさを<br>翻訳してくれるツールが<br>欲しいけどね。                          |
| クレア        | イギリス人だから。<br>英語を学ぶことね。                                       |
| セナ         | まあ、課題もいっぱいだねー。<br>僕が言うことじゃないかも<br>しれないけれど。                   |
| カツマ        | あはは……この恋が<br>健全か不健全かで、<br>また議論が荒れそうだね。                       |
| アナテマ       | すんなり流れてしまったら、<br>また置いていかれる者が現れます。<br>存分に荒れるべきですよ。            |
| プレロマ       | どうせ君達のことだから、<br>ゲロ甘になんとかすんでしょ。<br>あーなんか胸焼けしてきた。              |
| イオン        | プレロマお母さん。<br>ひとつ、気になることが。                                    |
| プレロマ       | んー、なーに？<br>言ってみー？  |
| イオン        | あなたはもしかして、<br>最初からこうなると<br>わかっていて……。                         |
| プレロマ       | なわきゃないでしょ？<br>親ってのはいつもだいたい、<br>物語ってのはだいたいなんです。               |
| イオン        | だいたいでもいい物語——ですか。<br>ACTのわたしには理解が難しいですが、<br>大切そうな概念ですね、お母さんっ。 |
| イオン        | けれども、だいたいの代替でも、<br>わたし達は恋を歌えました。<br>すごいでしょ、お母さんっ。            |
| プレロマ       | ふふふっ……まあでも、ちょっと<br>羨ましくはなってきたかな。<br>ホント、みんなベタベタしちゃって。        |
| プレロマ       | 悔しいから、今度は<br>お母さんも恋しよーっと！                                    |
| アナテマ       | ……『母』は去りましたか。<br>社会は真の変革を望み、<br>全ては私達次第、ということですね。            |
| セナ         | そーだね。<br>つまり……<br>どーゆーこと？                                    |
| ムツキ<br>シンジ | 見たままだろう。<br>人類とACTが、童貞を捨てても<br>よい世界を手に入れた。<br>そこは処女じゃねーの？    |

|      |   |
|------|---|
| ムツキ  | ふふはっ、どちらでもよい。<br>どちらにせよ、ひと皮剥けた<br>真のレイヤードはここからだ！          |
| カツマ  | もー、最後の最後なのに<br>下品だよ二人とも……。<br>また叩かれてもしらないからね。             |
| テルミ  | 世の中変えるライブしたんだから<br>叩かれる準備ぐらいしとこーよ。<br>ねっ、イオン？             |
| イオン  | はい、テルミ。<br>わたしはみんなを『大衆』と<br>ひとくりにせず、向かい合いますよ。             |
| イオン  | ユーザーさんとわたしを<br>認めてくれた人、認められない人。<br>それぞれと共に歩かなければ。         |
| ユウト  | ……。だね。<br>『大衆』って名前の人間は<br>どこにもいない、か。                      |
| イオン  | ……。さて、ユーザーさん、<br>その……。あの。                                 |
| ミアラカ | こら先生、なに突っ立ってんですか。<br>お姉ちゃんが手を出して<br>待ってるでしょっ。             |
| イオン  | うう……。前のように<br>手を繋ぐのも照れますね、<br>ユーザーさん。                     |
| イオン  | しかし照れるという表現は、<br>最適な解答がデータベース上にない、<br>新しい関係故のエラーそのもので……。  |
| ミアラカ | いーからはよ帰れ、バカッブル。   |
| イオン  | ……。では、ユーザーさん。<br>どうぞ、わたしの手を。                              |
| イオン  | 帰ったらまた、歌いますね。<br>わたしは、あなたのヒロイン。<br>あなたと、わたしのために——         |
| イオン  | あなたと一緒に、歌います。<br>共にいられる限り、永遠に。                            |
| イオン  | そして……<br>そして、改めて……。                                       |
| イオン  | ただいまです、ユーザーさんっ。   |
|      | ■渋谷全景   |
| イオン  | ——わたしが現れたのは、<br>シンギュラリティ以前の渋谷でした。                         |
| イオン  | 2037年。<br>イメージを現実に映し出す<br>レイヤード技術が浸透した時代。                 |
| イオン  | 人々は拡張現実のパートナー、<br>ACTを生み出し、<br>社会は急速に発展していきました。           |
| イオン  | 社会は、混沌も生み出しました。<br>不快な表現を削除できるシステム、<br>表現の衝動を制御できなくなる病——。 |
| イオン  | 変わりゆく心の価値に翻弄されながら<br>それでも、あなたはもがきました。<br>——そして、世界を変えました。  |
| イオン  | このレイヤードはあなたと、<br>あなた達の力でようやく、<br>ゼロから1へと『撻張』されたのです。       |
| イオン  | わたしとあなたが<br>生きていくのは——<br>シンギュラリティ以降の渋谷です。                 |
|      | //END   |